▼キブツの家庭生活(1)

▼新たなる社会への模索とキブツ経験

▼キブツの生活

キブツの子供たち



キブツの家庭
 生活

老人の問題に は夫婦、 も鮮か ている。 親子

出す外はない。だから夫婦生活こそ人間最高の神事であり、 従って旧約聖書のアダムとイヴのように、 うものであると云えよう。 いえども他の容かいを許さない。 ザナミのミコトのように、 科学文化の進歩で人間の月世界旅行も可能となったが、 ーフラー匹つくり出せない幼稚さでは、人間は神の思召に 男女の愛の睦ごとから新しい生命を生み キブツの夫婦生活こそ神意にかな 日本神話のイザナギ、 試験管の

わせたが、 息をふきかけてイヴ(女)をつくり、それを妻としてアダムに与え の子が生まれた。 ととなった。そのアダムとイヴからカイン、アベル、 で楽園を追わ た。二人はヘビの姿をした悪魔に誘惑されて禁断の果実をたべた罪 とされている。神は自分をかたどって、 旧約聖書一章から四章にある、 人独り れた。それ以来人間は死の苦 地球上の人類はその子孫であるとされてい いるはよくないと、 アダムとイヴは、 その肋骨を抜きとり、 アダムをつくり楽園に住ま しみからまぬがれないこ 神学上人類の祖 セトなど多く それに

ナミノミコトであり、天と大地をつかさどる格性をそなえたこの二 日本神話では、神代最後に現われる男女二神が、 ノコロ島にく 大八州の国と山川草木を生 イザナギ、

Totololololololol

築紫の小戸の橘のあおきが原というところにきて汚れをはらい、 最後に火の神カグツチノカミを生み、 路に隠居したとい で黄泉国(死後の世界)に去った。 イザナミノミコトの死体をみて逃げかえり、 イザナギノミコトはそのあとを イザナミノミコトは焼け死ん

な神話を信じないであろうが、ダーウィンの進化論でも、 生まれ、それが人間の祖先という点で一致している。現代人はこん旧約聖書でも、日本神話でも、男女二神の愛のいとなみから子が として神意に従うのが幸福であろう。 解明できない人間は神話を否定する資格がない。素直に神の子人間 生命の根元では神話にたよるより外はない。 の結合から子が生まれ、子々孫々今日に及んでいる点で一致するが、 日本神話でも、 生命の神秘が科学的に 男女両性

めて、アダムはイヴを、イヴはアダムを、 ぼ同数に生まれて、だれに教えられなくとも、年頃になると性に目覚 しい生命の誕生となり、 人間は自分の意志で生まれたものではない。 女に生まれたくて女に生まれたものでもない。それでもほ 未来永劫に続く。 さがし求めて相結合し、 男に生まれたくて男に

その秘中に神意至って新生命を宿す。 は恋愛あるのみ。そこに絶対の神意をみるであろう。愛は独占を要 怯者でも愛人を置去りに逃げだしはせぬ。生死を超越し得るもの 幸福である。その幸福を妨げるものは親子でも許せない。どんな だから恋愛は神聖であり情事は神意であって男女ともに至高至上 断乎として純なるを要求する。 愛の極致は秘を要求する。

みのり豊かな秋もない。人生悲劇の第一歩である。人類が神から遠一重の咳払いが気になる生活からは人生の春はない。春がなければ行の甘夢を永続することはできない。どんな裕福な家庭でもふすま ざかって行くのもそのためであろう。 さて世間一般の個人家庭では、この情事神聖が保てない。新婚旅

住宅に住んでおり、独りになれば老人ホームがある。別居といって にするので淋しくはない。 も目と鼻の先であり出入りは自由、三度の食事は大食堂で食事 単位であって親子といえども同居はしない。老父母も独立の夫婦この点でキブツは賢明な名解答を与えている。 キブツの生活は夫 を

由であるが、一定時間内に保母に任せ、夜、母親が添い寝することは 高校と義務教育であるが、その間子供は子供宿舎で共同生活の実習 子供は生まれて一週間後から保育所に託して保母が完全保育にあ 母親は授乳も愛撫も自由であり、 満三才で子供の家に入り、満六才で小学校、それから中学、 両親と寝ない。 自宅につれて帰ることも自

十六時間は男女ともに家庭の雑事もない。それは分業の利点で、 キブツでは男女とも一日八時間一週六日はみな労働するが 育児、 教育などすべて労働時間外におわ 、あと

> 室の二間だけの小宅である。実はそこにキブツの最高理想が秘めらあるが、メンバーの住宅は夫婦二人の寝所であるから、寝室と応接 れている。 の共同施設は食堂でもモアドン(娯楽室)でも、堂々たる大建築で を費すが あとは男女とも読書に散歩に娯楽に、 夜の大半はしずかな夫婦二人の別世界となる。 、または子供の愛撫に数時

避妊思想の流行ともなる。万年新婚の夢を満喫するキブツの夫婦生 活の甘夢も消滅して、三十代で初老女房になり下る。それを恐れて 詰り、子供の二人もできたら妻は寝るひまもなくなり、 個人主義生活では病気になっても怪我をしても、たちまち一家が行 日本でも「家つきカー しているが、 真剣に学ぶべきであろう。 実はいつわりなき嫁の願望であり時代の声である。 つき婆あぬき」こんな不心得な笑い話が流 恋愛も性生

っている。 は平常化しており、 いた家事、育児が問題となっている。欧米では女性も結婚後の就職による職業差も次第に消滅し、歴史的に女性の天職とも考えられて 金ではあがなえない。幼児の徳育が問題となり新しい頭痛の種とな を示している。世界的にみても女性の社会的な進出は著しく、 0 問題が少なくなかったが、キブツ生活ではたしかに本問題に名答 第九回キブツ研修生応募論文の中にも、親子の愛情とか育児教育 勤務先に託児所も保育所設備もあるが、 性別

日本ではまだまだ典型的女性といえば良妻賢母型であり、 女性自

なってきている。 階であるが、 となる。たまたま就職する女性も出産を境として家庭におさまる段 身も良き妻、良き母であることを誇りとし、結婚と同時に家庭夫人 次第に欧米風となりつつあって育児教育問題が重大と

まにあっても散在部落のため利用不可能であり、生活のための肉体 同体)あるのみである。 大原因はここにあるという。これら一切の難題を救う道はキブツ(協 労働であるから育児教育も顧みる余裕がない。農漁村の嫁飢饉も最 ものがある。大半の農漁村では託児所も保育所もあるでなく、た ことに日本の農漁村女性の肉体労働と育児の関係は放任を許さな

公園を散歩する若夫婦もよく見かける情景であるが、一定時間内に 母親は授乳も愛撫も自由であり、一日の仕事を終る午後四時から夕 託す。そこには幼児四人に一人の保母がいて完全保育の任に当たる。 は必ず保母に任せて母親が添寝することはない。 食時の七時まで幼児を自宅につれ帰ることも自由であり、乳母車で 前述したようにキブツでは幼児は生まれて一週間後には保育所に

である。 育の任に当たる。満六才になると小学校、中学、高等学校と十八才 するので、両親との同居はない。その代わり、毎夕二、三時間は会 まで義務教育であり、子供たちは学校宿舎で子供同志の共同生活を 満三才になると子供の家に移るが、ここにも保育係がいて保育教 キブツ人は個人的な経済のなやみも、 よそめにも羨ましいばかりである。特に留意に価すること ばいつでも会えるし、一週一日の安息日は一家団 雑事もなく、 天真爛漫な親 らん水入

> なる。 薄れを心配する人もあるが、それは溺愛と真愛とをかんちがい 愛とは本質的に異なるもので、それを混同することは双方の不幸と な理想を我が子に強いることは溺愛なのである。元来夫婦愛と親子 考え方であり、 本人の習慣もあってキブツの親子別居を表面だけみて、愛情の 「親子揃って川という字にねてみたい」そんな古風 した

キブツの鬼子まリーとみんだけで、一瞬にして父といども愛敵とされ、永久の信を失うものである。 でも川の字に寝た失敗談はありすぎるほどである。 人は、子供は子供部屋、夫婦は夫婦部屋が大原則である。いや日本人 にねてみたい」そんな諺はない。日本人よりはるかに精力的な欧米 蛋白食人種である欧米人はそのけじめがきびしい 澱粉食人種である日本人は、よく夫婦愛と親子愛を混同するが、 から「川という字 油断禁物四

成功をみている。 師指導の下に共同生活の体験教育を受けるのである。そしてそれそ二世三世永くキブツ協同体社会の発展のために、幼少時代から だ。真愛とは我が子を永遠の幸福に導くものである。そのためにこ に父母がいる。その上周囲は全部一家族も同じ財布ひとつの一体生 キブツの親子は別居といっても目と鼻の先、いつでも会えるところ 保母も教師もその一体家族の一員であり、愛に渇くひまはないの そしてそれは

まれた天分資質をのばしてやる教育である。この試験も競争もな 家から高等学校まで、入学試験も進学競争もない。各自のもって生 ではない。あくまで人間社会に役立つ人造りにある。だから子供の 吞気なキブツの学校出身者が、 キブツの教育は子供を出世主義や金もうけ主義の勝者とする教 イスラエル共和国の政治

が紙面の都合で割愛する。 るものがある。本問題については更に証例をあげて述べてみたい 軍隊において主要役割を果たしている点、正に注目に価

口でこすっからい人間はできても、人間性豊かな本物の人材とはな得て、我が子を割良く世渡りさせたいばかりである。それでは小利 役立つ人物の養成というのでなく、 0 ら我が子の天分資質も能力も理解せずに、いやがる学科を無理矢理 に試験勉強、入学競争と、狂気になってせき立てる。それも社会に も当然であろう。 得ないのだ。最近学生の間に学校忌避の気風が醸成されつつある 憂慮にたえないのは日本の学校教育であ 少しでも有名校を狙って学歴を る。 親の 欲目 1や利己心

物質欲も名誉欲も全く混入しない親子の愛。ちょうどそれは最高純 形にあらわれた共同とか、育児とか、 は味わうことのできない崇高なものである。今までキブツ研修とは度の恋愛に等しい美しさであり、偽善や虚飾に包まれた対立社会で は人の心の分野に一層の真価をみだす キブ ツの親子。これだけでも研究に価するものが無限にあろう。 労働とかであったが、 べきであろう。 キブツ

などで、 老人が総人口の一〇%、一千万人をはるかに突破しているという。 七十三才六ヶ月、平均七十二才にも達しており、現在六十才以上の明治の中葉ころに較べると約二倍にのびて、男六十九才四ヶ月、女 界の 国民の平均寿命が七十才を越えるようになった。日本でも 文明国といわれる国々では、医薬の進歩と衛生思想の普及

> 1 か に、年々何百億円かの予算も計上されているが、 人対策を政府がまったく放任しているわけではなく、 には老人福祉法案も議会を通過して、 水でほとんど 何の役にも立っていない 養老年制とか養老院施設と そんなものは 昭和三十 焼

同罪なのである。 0 は養老院にゆくようになるぞ」と口をすべらせたばっ に見えるであろうが、 く暮らす金権政治屋からみると、養老院ゆきの老人など不心得もの 涙で なんとか大臣が、 辞表を出したと、新聞は報道していた。たんまり儲けてぬく ある青年集会で、 そんな政治屋をのさばらせておく国民だっ 「諸君も心がけが悪いと老後 か りに、 泣 X2 3

はげし である。 を持て の家計 重荷の こんな世智辛い世の中では我が子の経済力にも頼れない。 また俸給生活者の定年制も罪な話だ。五十五才といえば家庭的にも 人間はだれでも老後のことを考えるから、一生懸命働きもするが、 あましている老人のなんと多いことか。 か い経済変動のなかで、 が支えられよう。 かる年令である。貰った退職金はインフレ経済下では幾年 肉体の老化で二度の勤めはほとんど不可能、 何十年後の老後の保証にはなり得ない 正にこれ人類の悲劇 平均寿命

牲なのだ。その証拠ならいくらでもある。 が負うべきものであることが判る。彼等は青壮年時代から、それぞのためではなく、大半の老人の経歴を調べてみると、罪も責任も国 さてそんな哀れな老人でも、 の立場で ものほど損をした。正直者ほど馬鹿をみた。 時代の役割を果たしてきた功労者である。そして真面目 なんとか大臣の失言 それは政治の犠 のような不心得

だが政治の責任であろうがなかろうが、 またどんな偉大な為政者

名 なが な福祉国家、北欧スェーデンが世界一の老人自殺国であることでい。第一老人問題は経済だけで片付く問題ではない。世界的に有表われても、一千万老人が満足するほど経済的に救えるものでも それが判ろう

16

値を失ったと感じたときである。 心の充実がなければ生甲斐がない。 と考えるところに政治のうそがある。 老人問題は貧乏人だけの問題ではない。それを経済的に救 を傷つけられるだけである。老人の致命傷それは社会的存在価 お貰いの養老年金など人間的 40 や誤り があるの だ。人 い得る 間は

は 鼻の先の集団生活であり、せがれの家にも自由往来である。 そこには世話係がいるので不便はない。そして別居と云っても目と で住んでいる。 ブツの家庭は夫婦単位であるから、 十年の歴史があり特に老人問題にも 両面から老人問題はたちまち氷解するであろう。キブツはすでに六 て暮らせるのが、キブツ共同体社会である。キブツを真似たら物心 一生もっとも充実した人生を送り、 毎日家族団らんの食卓を共にする。利害関係のいさかいがまった から姑と嫁も年中円満明朗そのものである。 歴史があり特に老人問題にも鮮かな明答をあたえている。 もし一人になれば老人ホームで暮らすことになるが、大婦単位であるから、老人夫婦もみな夫婦住宅に二人 老人になるほど生甲斐を感じ 食堂で +

健康であるかぎり七、 もひけめがない。 必要に応じて分配を受ける」という大原則があるから老人となって により保持するからである。 キブツでは老人ほど優遇されるが、それは平等社会の秩序を古参 から引退しても自分の好みに合った仕事が また満六十五才以上になると労働の義務はないが 八十才になっても、 キブツには「各自能力に応じて働き 自ら進んで働いている。 45 らでもある

> 3 0 そ長寿を誇る老人たちの生甲斐である。 ごとさ。花好きのキブツメンバーであるので特に喜ばれる。これこ である。 農業に年令なしと から実に陽気で愉快で生き生きとしている。 文 筆に日を送るものなどであるが、 キブツの中央センター 験が物をいう花造りなどは老人ほど達 は公園でもあり、常に百花爛漫の 人に喜ばれるのが目的であ その他工芸品に熱中す るも 2

いるのはキブツ社会では一人の落伍者もなく、全老人がれは万人に一人もない億万長者の楽隠居の心境であろう気も広々として無言の内に誇りを感じ生甲斐ともなる。 0 幸福感を味わうことができる。 堂々たる文化建築も、 るのはキブツ社会では一人の落伍者もなく、全老人が同じ思いのは万人に一人もない億万長者の楽隠居の心境であろうが、違って to キブツの老人たちは、 0 けちな個人私有欲などとはけたちが みんな自分たちの努力の結晶であり自分たち 毎日眺めて暮らす何千 10 I に大規模なもの、 カー ち 0 農 ようどそ 专

で、 女は、 にまさる実践の声である。キブツ人の労働に賃金はない。八十ねてみると「私は仕事がすきです」と一言だけ返ってきた。百 発展はキブツのこの気持の集大成なのである。 がある。 老女には労働の義務もない。 最古のキブツ、 一昨年十一月視察訪問の際「なぜそんなに働くのですか」と尋 今もなお朝は四時に起きて乳牛の世話をしていると聞いのキブツ、デカニヤの創設者の一人、八十一才のミリア 人に喜ばれることが最大の自分の喜びである。キブ労働の義務もない。だが働かずにはいられない労働 のミリアム老 キブツの 百万言 たの の喜 一才

合わせとなってエネルギーの無駄使いにおわる。 一般では私欲のために夢中で か それ は私欲と私欲 の鉢

を達成した人は千人に一人もな だれもかれも金もうけに夢中であるが、 (62頁へつづく 目的

柄気にかかったので、少しの間 て、 乳を飲むのを拒否した。 それを分けあって生活するから一人の落伍者も不幸なものもいない。 (7頁よりつづく) それも奪ったものは必ず奪われる、奪い合いの経 んなのために働くことにより、 界では大半の人が空しい一生を終るのが当然である。キブツ人は 後の安定も百%保証付きとなる。本当の福祉社会、それはキブツ こともある。 が完全に受け入れられるには数日間を要する 個々人の幾倍にも成果があがる。

挙の時の票かせぎ文句にすぎない。だまされないことだ。(つづく)

似るより外にはない。資本主義国の福祉国家、そんなものは